



山村振興のキーポイント

森林管理の国際認証と企業の社会貢献をマッチング

【岩泉町から学ぶ】



地域で共同した取組

グループ化により森林認証取得

森林認証を受けるにあたっては、コスト面等から考えて、一企業ではなかなか踏み出せない場合がある。岩泉町では町と企業がグループとなり事務費等コストの分散化を図ることによって、認証取得における負担を軽減した。

客観的な視点

FSC森林認証に着目

地域林業の再興を検討した際に、国際的な認証制度を獲得することによって、客観的な評価を得られ、それを通じ企業の連携等多様な展開が可能となった。

企業との連携

CSR活動とのマッチング

FSC森林認証を通じ環境に配慮した森林管理の取組が認められ、町の林業及び林産資源の維持・活用を企業のCSRとマッチングさせたことにより、取組への経済支援が得られた。

基幹産業としての誇り

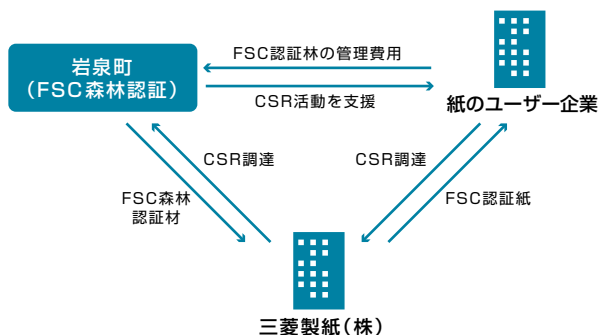
地場産業への思いが きっかけとなる

面積の大部分が森林であるという特性を踏まえて林業経営が厳しい中、林業従事者に自信を持ってもらいたいという「思い」が取組のきっかけとなった。



活用した組織と制度

企業との連携による循環型ネットワーク



認証制度の活用と 都市部サポーター企業へのPRを目指す

岩泉町役場 農林水産課林業水産室室長 有原健泰 氏



認証取得にあたってはコスト面等の課題があるため、一企業では取得になかなか踏み出せないこともあります。そのため本ケースでは、当町をはじめ、協力企業との連携によって取得に臨み、事務費等にかかるコストを分散することができました。その反面、町内の事業体からの理解と参加を得るために勉強会等の準備期間に一年半かかりました。いずれにしても森林認証には、企業の森林認証に対する理解と、地道な努力が必要となります。

森林認証は「ブランド」とは違います。つまり、認証林とそうでない山から生産された木材の品質そのものに違いが生じるわけではないため、今のところ林業において経済的側面での効果はほとんどありません。しかし、認証の取得をきっかけに森林のゾーニングや評価を改めて実施したことに

よって保全と活用のバランスをより意識した取組へとシフトしました。その結果、今まで保全重視だった町有林での生産計画が具体化し経済性の向上につながっています。

今後の目標としては、森林認証の普及と面積拡大を最優先課題として取り組むとともに、認証を活用した製品の商品化と利用促進などに取り組んでいきたいと考えております。



今後の課題・展望

森林認証の拡大と町の活性化への展開へ

目標1

認証森林の拡大と体制の充実

- 森林所有者等にグループへの参加を呼びかけ、認証森林面積の拡大を図る。
- 関係機関、関係団体との連携を図りながら、環境に配慮した森林施業や安全装備などを全町的に普及する。

目標2

町経済の活性化に寄与

経済効果への反映も期待されるが、そこが悩みどころ。林業そのものが厳しい状況であるが、認証森林からの積極的な生産活動を行うとともに、CoC認証の普及と認証製品の開発・販売を推進する。

目標3

他都市との連携や人的交流の拡大

- 認証森林を活用し、研究活動へのフィールド提供や、環境教育プログラム、エコツアー等を企画、実施。
- 他の国内認証取得団体と連携し森林認証の普及啓発や認証製品のPRに取り組む。

関連・関係する団体

株式会社 吉本岩泉事業所 〒028-2231 岩手県下閉伊郡岩泉町浅内字松野45-12 Tel : 0194-22-3665
北菱林産株式会社 岩泉工場 〒027-0507 岩手県下閉伊郡岩泉町二升石字西野49 Tel : 0194-22-3369
岩泉町森林組合 〒027-0501 岩手県下閉伊郡岩泉町岩泉字天間17-1 Tel : 0194-22-2529
三菱製紙株式会社 〒100-0005 東京都千代田区丸の内3-4-2 Tel : 03-3213-3751 (代)